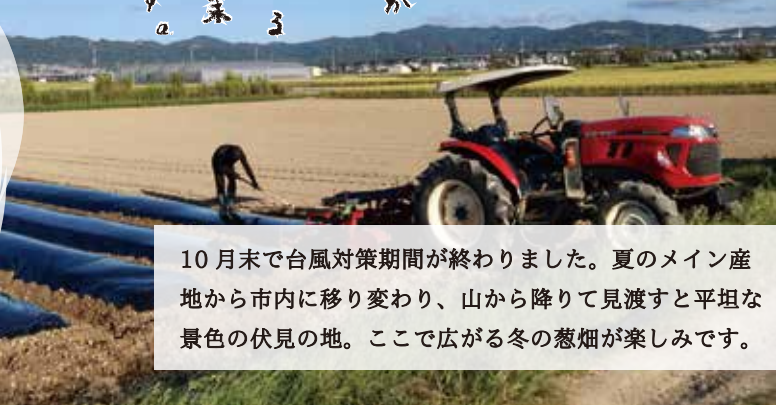


言葉で感じる季節

余光
よこう

太陽が沈んだあとに空に取り残された光。ふと見上げる空に、1日の終わりを名残惜しんでいるかのように残る。昨日より今日、1日の終わりが早くなっているようだと感じる季節です。日によって、余光の雰囲気も違っていきなあと感じます。冬に向けての準備が慌ただしいですが、仕事終わりの空模様が密かな楽しみに。

冬に向けて、新しい年も越えていくための大切な土作り。今年も旬の美味しさが詰まった冬葱が育つようにと、お届けできるように楽しんで今の作業を大切にしています。



10月末で台風対策期間が終わりました。夏のメイン産地から市内に移り変わり、山から降りて見渡すと平坦な景色の伏見の地。ここで広がる冬の葱畑が楽しみです。

古都・事・言 3つの「こと」を伝えます

ことねぎだより

NO.174

2021年11月号
TEL: 075-601-0668



KOTO GROUP
4A

秋
葱

今月の
ことねぎ

今月、みなさまにお届けする九条ねぎが京都でどのように育ったものなのか、物語(事)を少しでも知っていただき、より美味しく召し上がっていただければと思います。

京都府内の産地で夏を越えた秋葱のお届け

今月からは丹後・美山・亀岡に加えて、市内の伏見で育った秋葱もお届けします。6月末から7月初旬の初夏にかけて定植した葱たち。今年の8月頃に2回目ほど梅雨と思わせるような、長雨・低温の日が続きました。その為、肥料がいつもより早く抜けてしまう変化がありました。収穫したものの劣化が早く、出荷できず廃棄してしまう事もありましたが、その後は追肥で栄養を与えてあげると元気を取り戻した葱たち。そんな生命力を感じる秋葱をお届けです。



農人たちの畑での作業の様子、THE 農業!の現場の「こと」を発信

市内での作業が活発!涼しく、時には寒い、冬支度

10月中旬まで、気温が30度まで上がる季節外れの天候。その後、急激に気温が下がり、ねぎたちも混乱しているようで、例年に比べると生育状況に悩まされました。ただ、夏頃に比べると農人にとっては日中働きやすく、ねぎにとっても良い環境になってきているのは確かです。これからの生育に期待する心持ちな秋の季節です。



ねぎの葉先に器用に止まる、赤とんぼさん。

また、この時期は春ねぎに向けての準備も始まっています。8月に雨が多かったこともあり、夏場に予定していた畝立て作業を進めることができず、10~11月は秋の晴れ間を狙い、一斉に畝を立てる必要がありました。そこで、1つの圃場で2台のトラクターを並走して、一気に畝を立てました。農人一同、フォローしあったりと団結し、目標達成を目指しました! まだまだ畝立ては続く...!



管理機で土をマルチに寄せて飛ばないように



背中で語る、農人の意気!

とある日の農人日記。

圃場内の草刈りをしていると、空に舞い上がる虫を捕食するためにツバメの群がトラクターの周りを飛び回っていました。冬の畑の準備に合わせて、ツバメも越冬するための冬仕度。数千km飛ぶための体力をつけるために懸命な姿を見ながら自分も頑張ろう!と思いました。(大石)